

ビデオ 通信

2026年
3月30日(月)

No.4946

||||| 70th
since 1956

月・木曜日発行
月額：¥11,000(税込：¥11,880)
発行：飯澤剛
編集：齋藤浩一

ユニ通信社

〒114-0024
東京都北区西ヶ原 3-57-17-202
TEL：03-5422-7515
FAX：03-5422-7516
E-mail：vt@uni-press.net

TREE Digital Studio

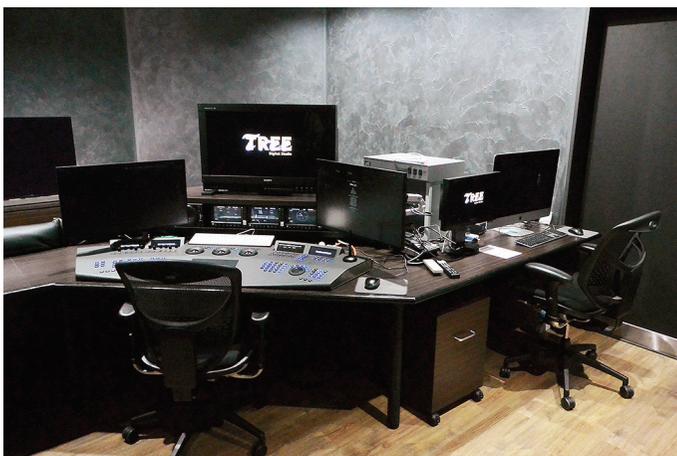
DIGITAL GARDEN 事業部 MTR の Bay-301 に「Baselight M」を導入

より直感的な色調整が可能、長尺作品への対応を強化

+

(株) TREE Digital Studio のポストプロダクション部門「DIGITAL GARDEN」はこのほど、渋谷区恵比寿にある MTR ビルのグレーディングルーム「Bay-301」に、FilmLight 社のカラーグレーディングシステム「Baselight M」を導入し、稼働を開始した。同社の Baselight 導入は初めて。今回導入した「Baselight」は、ペンタタブレット等による直感的な色調整を行えることが大きな特徴。

昨年、Mac 版の「Baselight M」がリリースされたことで、フラッグシップグレーディングルームである「Bay-301」への導入を決めた。同一マシンに搭載されている DaVinci Resolve との切り替え運用も可能。同社では、映画・ドラマ・配信系コンテンツなどの長尺作品に加え、テレビ CM での Baselight 活用も積極的に提案していく。



DIGITAL GARDEN のフラッグシップグレーディングルーム

+

「Bay-301」は、2024年2月にオンライン編集室からグレーディングルームへ改装した、同社最大のグレーディングルーム。監督やカメラマンのスペースを広く確保し、プロダクションスタッフの席もゆったりと作業を見渡せる設計となっている。

マスターモニター／クライアントモニター（ともにソニー）は視野角が広く、部屋のどこからでも同じ環境で映像を確認できる。マスターモニターには 31 型 4K 液晶マスターモニター「BVM-HX3110」を導入。HDR4000nits に対応し、従来の 1000nits と比べてピーク輝度の幅が広く、カラーグレーディングの表現領域も拡張されている。4K HDR 対応の波形モニターも設置しており、HDR 映像でも安心して作業が可能。一方、クライアントモニターには 4K 有機 EL テレビ「A95K」を採用している。

今回導入した「Baselight」は、映画・ドラマ・CM などの現場で広く採用されているカラーグレ

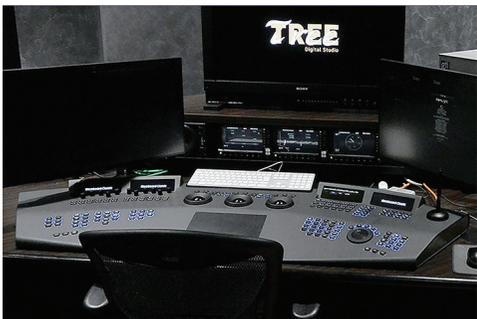
ーディングシステム。FilmLight社のカラーパイプライン「T-CAM」と、それに合わせて設計された独自のカラーツール「Chromogen」「X Grade」などにより、柔軟かつ多彩なルック構築と色処理が可能だ。カラリストがより直感的に色調整を行え、映像の質感や世界観、感情表現を豊かに仕上げるができる。

また、プライマリー調整に加え、トラッキング情報やワイプ情報などのセカンダリーデータを「BLG ファイル」として書き出すことで、調整内容をそのまま Autodesk Flame に反映可能。オンライン編集の仕込み作業の効率化と、作品の完成度向上に寄与する。

「導入ハードルの低下」「独自のアプローチの魅力」「長尺作品への対応強化」

DIGITAL GARDEN Div. Color Dept. カラリストの足立悠介氏は、Baselight 導入の経緯について〈Baselight の存在は以前から知っていましたが、導入コストの高さと、当社で DaVinci Resolve 向けに構築した Mac システムからの移行ハードルが課題でした。昨年、Mac 版の「Baselight M」がリリースされ、ソフトをインストールするだけで利用できるようになったことで、導入が現実的になりました。また、素材を一度独自のガンマカーブに変換して作業を行う Baselight は「ルックをより細かく掘り下げて調整できる」と感じています。様々な機能が変換後のカラースペースに最適化されているため、Alexa や RED など異なる素材でも同じ感覚で扱えます〉と語る。

また、ツール面では“直感的に色が触れる”点を強調。〈Blackboard Classic コントロールパネル（←写真）では、ペンタブレットで画面上の色に直接触れながら方向性を変えることができます。感覚的に色を調整しても破綻しない点は大きな魅力です。今後のグレーディング業務において、非常に強い武器になると期待しています〉（足立氏）



さらに、同社では従来、テレビ CM や MV など短尺作品が中心だったが、近年は映画やドラマなど長尺作品の比重が増加していることも導入の背景にあるという。〈当社では Netflix 作品や映画など、長尺案件に取り組む機会が増えています。Baselight はフィニッシング工程に強みがあると感じています。オンライン編集との連携や最終書き出しなども含め、効率的に作業できると考えています〉（足立氏）

Baselight/DaVinci Resolve を同居

リニューアルした Bay-301 は 2 月から運用を開始。現在は繁忙期と重なり、DaVinci Resolve と Baselight を案件ごとに切り替えて運用している。

今回導入したソフトウェアは「Baselight M」「コンフォームアシスタント用ライセンス」「BLG for Flame」。ハードウェアは「Blackboard Classic コントロールパネル」のみで、既存の Mac Pro を活用しているため、DaVinci Resolve との同居運用も可能となっている。

DIGITAL GARDEN Div. Color Dept. アシスタントの長沼勝大氏は〈同一マシンでの柔軟な運用は大きなメリットです。Baselight はフローティングライセンスで契約したため、どのマシンでも利用可能で、コンフォーム作業も空いている環境で行えるようになりました〉と説明する。

導入にあたっては、㈱レスターおよび FilmLight 社のカラリストによるリモート講習に加え、来

日したカラリストから約 3 日間のトレーニングを受講した。現在、DIGITAL GARDEN のカラリストは 9 人、アシスタント 7 人の計 16 人体制で、今後は Baselight 対応スタッフの拡充も図っていくという。

「カラリストとしてのステップアップ」が必要



足立悠介氏（左）と長沼勝大氏（右）

実際の使用感について足立氏は〈細かな調整が可能な反面、自分の中に明確なカラーイメージがないと 100% 使いこなすのは難しい。「カラリストとしてのステップアップ」が必要だと感じています。お客様からは直感的な操作性が好評で、特にカメラマンからは「ペンタブレットでの特定色の調整が滑らかに変化する点が印象的だった」と高く評価されています〉とする。

一方、DaVinci Resolve で構築してきた効率的なワークフローと比較すると、まだ改善の余地もあるという。足立氏は〈操作体系が大きく異なるため、慣れの問題はありますが、トレーニングで解決できる部分だと考えています。書き出しやデータ整理の速度については、今後さらに検証していきたい〉。長沼氏も〈API が提供されているため、自動化などで効率化の可能性はある〉と話す。

最大のメリットは「選択肢が増えたこと」

「Bay-301」は DIGITAL GARDEN のフラッグシップグレーディングルームで、広い空間を活かし、多様な試写スタイルに対応できる点が大きな特徴。今回の Baselight 導入により、映画やドラマ、配信コンテンツなど長尺作品への対応力をさらに高めていくという。

足立氏は、Baselight 導入の最大のメリットとして「選択肢が増えたこと」を挙げ、〈まずは我々が使いこなすことで、他のカラリストの心理的ハードルを下げていきたい。それも重要な役割です。また、お客様のニーズに応えるだけでなく、Baselight を活用した新たな提案も行っていきたい。例えば、Netflix 作品のような HDR での納品が必要な案件での活用を見据えています〉と語る。

長沼氏は、〈DaVinci Resolve と Baselight の両方を活用することで、カラーマネジメントの観点から比較検証が可能になる。グレーディングだけでなく、基盤技術のノウハウ蓄積にもつながると思います。Baselight は ACES に近い思想をベースとしたシステムで、シーンリニアなグレーディングが可能です。DIT との連携や、BLG データによる一貫したルック提供にも大きな可能性があると考えています〉と話している。

◇ TREE Digital Studio <https://www.tdsi.co.jp/>

◇ DIGITAL GARDEN MTR 「BAY-301」 東京都渋谷区恵比寿 2-36-13 広尾 MTR ビル 3F



BAY-301 の広いクライアントスペース